

令和 7 年度 第 2 回 長泉町行財政変革会議

－議事録骨子－

日時：令和 8 年 2 月 9 日（月） 9：30～11:40

場所：長泉町役場西館 4 階大会議室

出席委員

小泉祐一郎委員、中村健委員、千葉寿子委員、中山勝委員、堀部かすみ委員
(以上 5 名)

議題 財政運営のあり方について

○資料 1 「持続的な財政運営の実現に向けて」について事務局から説明

○委員からの主な意見

財政運営の基本的考え方について

- ・町の戦略をどう作るのかという話になると思うが、その戦略を作る際に、2 点意識すべきことがある。1 つ目は何をしないかという引き算と、2 つ目は何をするかではなくどうやっていくのかという点に重点を置くと良い解決案が出ると考える。予算を増やす、削るという話だけでなく、将来のまちをどう描くかという部分にも繋がってくる。
- ・人が増え、税収も増加するなど色々考えていくなかで最終的には長泉町が何を残して何を伸ばすのかをもとに今後決定していくべきだと考える。
- ・削る話からではなく、先に予算をかけ投資し、充実する中でどうしても見直しが必要であれば見直しを実施する形が良いのかもしれない。
- ・長泉町としてこれからどういうまちづくりを行っていくのかにもより、財政を一律に削っていくのか、それとも逆に更なる投資をすべきなのかといった話になると思う。
- ・事業の廃止縮小だけでなく、「試行的休止」の考えも取り入れ、国や県が実施している休止も検討に入れてもよいと考える。
- ・他市町では町立保育園を社会福祉法人に移管という形で手放し、財源確保といったケースもあるので、こういった手法も実施を検討すべき。
- ・町が一生懸命汗をかき過ぎている印象があり、ある程度の規模になった際は、町だけでなく民間と協力してどうやっていくかということが極めて重要だと考える。
- ・子育て終了後も継続して住み続けていただく町になっていくためには、やはり子育てに重点を置きつつ、他市町と差別化した特別な売りを思い浮かべて構築していく必要がある。
- ・現長泉中学校の土地を売却すれば相当額の金額が入ってくるのではないかと推測しており、今後の財政面を考え土地活用に自由度を持たせた方がよいと思う。

行政運営の手法について

- ・行財政変革の観点からいうと、例えば職員の業務の進め方、いわゆるプロセスの見直しも重要であると考え。近年だと生成 AI を活用すると、今まで一つのプロジェクトを進めてい

くの半年かかっていたものが、1ヶ月で完了するなど、時間対効果や費用対効果の観点からも重要である。

- ・例として、公民館の維持管理費がかかると嘆いている自治体があり、公民館がもしなかったらどうなるか聞いたところ、公民館がない前提で考えていくと様々なアイデアが自治体職員と住民から出てきた。公民館がある前提で考えるのではなく、根本的に前提を変えると、全く違う視点が生まれることがある。
- ・存続していい事業とやらなくてもいい事業の区別が必要であるため、事業を休止し、特に影響が出なければ廃止するようなフローでも良いと考える。また、新規事業を実施する際にわくわく感も足し、やりがいを持たせることも必要である。
- ・町単独ではなく近隣市町と広域での連携を考え、広域連携を検討するなかでこれだけは完全に町がやらなくてはならないものも出てくると考える。
- ・効率化すれば同時に経費が削減されるもの業務負担を軽減できるもの、そういった観点で職員や町民の実際の声を聞いてみることは非常に重要であると考えている。
- ・公共施設の再配置の検討もしていく中で、今後は一体化や複合化を視点に入れてほしい。